

2006年11月30日京都新聞朝刊に
血液透析センター長の前田先生の『腎不全』に関する記事が掲載されました。

体のしくみと健康 ～ 腎臓の働きと病気 ～ Q & A 専門医がお答えします




実際の新聞記事

腎不全

- Q** 腎不全とは。
- A** 腎臓が障害を受け、本来の機能を果たせなくなった状態を言います。急性腎不全は突然発症し短時間で回復することが多いのですが、長年かけて発症する慢性腎不全は回復不可能です。
- Q** 原因と症状は。
- A** 透析にまで至った慢性腎不全の原因の第一位は糖尿病で、糸球体腎炎、腎硬化症と続きます。腎臓病の症状はタンパク尿、血尿、むくみ、高血圧などですが、血液検査で異常が出るのは腎臓の働きが20%異常に落ちてから。このときも自覚症状はほとんどなく、腎臓の働きが10%以下に落ちてから初めて、体のだるさ、貧血による息切れや動悸などが出現し、さらに進行すると肺に水がたまり呼吸困難になったり、嘔吐、けいれんなどの症状が加わります。これらを尿毒症といいます。急性腎不全は急に発症するので症状が出やすいのですが、慢性腎不全は症状が出にくいので、定期的な検査が重要です。
- Q** 治療法について。
- A** 腎不全の治療法には、血液透析、腹膜透析、腎移植の3種類があります。血液透析は日本で最も多い治療法です。腹膜透析はおなかにカテーテルを挿入し、透析液を腹腔内に入れ自分の腹膜を使って透析を行うものです。これは在宅で通院時間の拘束がなく行え、就寝中に行うことも可能です。また、近年、保険診療で家庭血液透析が認められ、透析施設に通院することなく、自宅で血液透析を行うことが可能になりました。患者と家族が事前によく訓練を受けることが必要ですが、守数です。

が家庭透析を受ける方もおられます。京都でも先月、第一号が誕生しました。腎移植は唯一の根本的治療ですが、京都では年一、二例という現状です。

 予防法は。

 健康診断で検尿を定期的に受け、血尿やタンパク尿が出たら放置せず腎臓専門医で受診してください。糖尿病の方は血糖の管理を良くして腎臓の合併症を起こさないよう注意しなければなりません。血圧の高い患者さんは高血圧の治療をして下さい。

2006年11月30日付 京都新聞(朝刊) より